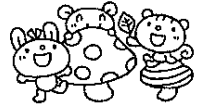




て・く・む (神はいつも私のそばに)



2020年9月1日

— 9月の園だより —

幼保連携型認定こども園加世田聖母幼稚園

✠聖書のことば✠

「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」

—マタイによる福音6章24節—

私たちカトリックの幼稚園で、毎朝何気なく唱えている「主の祈り」について、その意味を味わってみることも意味のあることだと思います。「主の祈り」の中に、『私たちの罪をおろしてください。私たちも人をゆるします。』というくだりがあります。ここで、たいていの方は「自分はそんなに悪いことをしていないのに・・・。」と思うのではないのでしょうか。では、私たちの罪とはどういうことなのでしょう。

私たち人間は、本来自己中心的な生き方をしがちな存在です。他人のことよりも、先ず自分のことを先に考えてしまいます。その為に知らず知らずのうちに他人を傷つけてしまうことさえあります。それを悪いというわけではありません。そんな自分だと気づいていることが大切だと思うのです。

罪の自覚ということ言えば、日本においても親鸞聖人のことが思い浮かべられます。彼も己の罪深さにずいぶん苦しんだ人だと言えるとされます。彼の書いた文の中で、『善人なをもて往生をとぐ、いわんや悪人をや』（『歎異抄』）～自分は何の非もない善い人だと思っている思い上がった人でさえ天国に行けるのだから、自分は罪深く、どうしようもない悪人だと罪の自覚を持った人が、天国に行けないわけがない（私訳）～くらいの意味でしょうか。自分の罪を自覚し、認め、へりくだる謙虚な人にとって、阿彌陀如来の「南無阿彌陀仏」（凡夫を救わずにはおくものか）という御誓願は尊くところに響くものだったと思います。

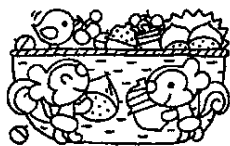
新約聖書にも同じように、パウロが「正しい者はいない。一人もない。…善を行う者はいない。ただの一人もない。」（「ローマの信徒への手紙3.10~12」）と述べているように、人間は皆、欠点や弱さや不完全さを抱えながら生きているわけであり、そのことに気付いていることが福音を受けるにあたり、とても大切なことだと述べていると思います。そんな罪（自己中心性、不完全さ、弱さ）を抱えた私でも、行いによってではなく「そのまま・ありのまま」に、イエス様の十字架の貴い贖（あがな）いの業（わざ）によって赦されている（Good news=福音）のです。さらに、イエス様の十字架は他でもない「この私」の救いにとってなくてはならない必然的な出来事だったのだと気づく（信じる）とき、深い感謝の気持ちが湧いてくるのだと思います。人間は本来、そのように弱く不完全なものだからこそ、自分が赦されたように相手の弱さや欠点を認め、受け容れ赦すことにつながっていくと思います。そしてそこには、人としての深い連帯の気持ち『絆（きずな）』も生まれてくるわけです。

幼児教育においても、私たち大人（保育者）もまだ未熟なところもあるのだから、子どもたちの足りない所を補い合い、子どもの長所を伸ばしてあげるように援助して、共に成長できる関係でありたいと願いながら、日々子どもと関わっています。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

園長

ほのぼのニュース

ばら組



「にっこりスマイル☺ Hくん」

7月に入園してきたHくん。にっこり笑顔がかわいいHくんのお世話をしたいお友だちがたくさん♪
みんな、シューズはここでぬぐんだよ。帽子をかぶるよと手渡してくれたり、一生懸命です☆
リュックのファスナーがあかずに困っていると、気付いたお友だちがお手伝い。
その後、見つめ合いお互いにほほえむ姿にジーン・・・♡
11名になったばらぐみさん。元気も優しさもパワーUP!で毎日楽しく過ごそうね(っ)っ)

うめ・すみれ



「リクエスト上手にメロメロ(#^^#) Kくん」

9月で2歳の誕生日を迎えるKくん。成長著しいこの頃・・・
先生たちの話をよく聞いていて、共感し話に参加することもあれば、なんと!!敬語まで話せるようになってきたのです!お部屋の畳の間からフローリングへ行きたいときの「Mせんせー、いってーいーですか?」と聞いたり、お家では「ママ、なっとう(アイスなど)たべてーいーですか?」と食べ物のリクエストをするそうです!そんなことを言われたらメロメロになって何でもあげたくなっちゃう♡と思う反面、私たち保育者の言葉使いも気をつけなければと気が引き締まるのでした(*ノωノ)